



「日本静脈学会国際委員会企画 —インターナショナル・セッションと伊勢志摩観光に参加して—」

西の京病院血管外科 今井崇裕

2019年7月4～5日、ウインクあいち（名古屋市，愛知県）で第39回日本静脈学会総会（会長：石橋宏之先生，愛知医科大学血管外科）が開催されました。インターナショナル・セッションと翌日（7月6日），日本静脈学会国際委員会企画の総会に参加された海外の先生方と伊勢志摩観光に行ったので報告させていただきます。

昨年の第38回日本静脈学会総会（会長：孟 真先生，横浜南共済病院心臓血管外科）から，プログラムの中にインターナショナル・セッションが企画されました。その後，国際委員会が立ち上がり，委員長の八巻先生，孟先生を中心に日本静脈学会の国際化を図る目的の一環として，日本静脈学会主催のインターナショナル・セッションとこのイベントが企画されました。

インターナショナル・セッションは昨年同様の初日午前中に開催され21題の演題で英語のみの講演・議論が行われました。皆さまの来年のご参会をお待ちしております。

参加者は国内からは，諸國 真太郎先生（諸國真太郎クリニック），八巻 隆先生（東京女子医科大学東医療センター），孟 真先生（横浜南共済病院），小川智弘先生（福島第一病院），筆者（今井崇裕，西の京病院）と当院のスタッフ4名です。海外からは Sergio Giancesini 先生，Erica Menegatti 先生（University of Ferrara, Ferrara, Italy），Kathleen Gibson 先生（Lake Washington

Vascular, Bellevue, WA, USA），Johann Christof Ragg 先生（Angioclinic Vein Centers, Berlin, Germany）とご家族2名の総勢15名でした。なお諸國先生は参加のみならず，開催前から陰日向にサポートしていただき感謝しております。

当日は名古屋駅に集合し，電車で日本随一のパワースポット伊勢神宮に向かいました。その途中で小川先生が急用のため，電車を降りることになり波乱の幕開けでした。さらに現地は雨が降ったり止んだりする，あいにくの天気でした。しかし心配する私に，海洋性気候に属して1年を通してほぼ雨と曇りであるシアトル出身のGibson先生は，雨は全く気にならないと優しく声を掛けてくれ，少し気持ちが楽になりました。

伊勢神宮では3時間かけて外宮と内宮の両方を回りました。英語が話せるガイドをお願いしていたこともあり，われわれ日本人も意外と知らない作法を教わりました。皆が参道の中央を歩かず，鳥居の前では神前に進み，姿勢を正して軽く一礼する姿は，後ろから見ていただけでとても神聖な気持ちになりました。そして緑の木々が映った手水舎や五十鈴川の流れに手をひたし，清らかな気持ちで参拝は進んでいきました。ただし，ご正宮は感謝を伝える場であり，個人的なお願いごとは第一の別宮で伝える，という作法を参拝の後で知り，皆に内緒でしたが，個人的には少し恥ずかしい気持ちになりました。



昼は日本の伝統的な調理方法である松阪牛の鉄板焼を食べました。カウンター席に座ってもらい、シェフの炎を上げて調理するパフォーマンスに皆が驚く姿を期待していました。しかしシェフは意外と静かに調理され、それ自体は少し期待外れでしたが、食事はとても美味しく頂きました。

昼食後は「おかげ横丁」を散策しました。Gianesini先生は日本刀風の侍雨傘がとても気に入ったようで、その刀を手に何度も侍のポーズをとり、Menegatti先生はその姿を笑いながら写真を撮っていました。

夜は2016年のG7の食事会の開かれた「志摩観光ホテル・ベイスート」で懐石料理を食べました。ホテルから見える英虞湾の景色は素晴らしく、かつて昭和天皇がホ

テルに滞在した折、眼下に広がる絶景に感激し歌を詠まれたようです。昼までは雨でしたが、天気も回復して「日本の夕日百景」に選ばれた圧倒的な夕景を目に焼き付けることができました。2年連続で日本静脈学会総会に参加されたRagg先生から、昨年よりもさらに素晴らしいインターナショナル・セッションになっていたので来年も楽しみにしているよ、と励ましの言葉を頂きました。

最後に諸國先生、八巻先生、孟先生から皆へ感謝の言葉を述べられ、同時に当学会の国際化に対する思いを伝えられ、来年の再会を誓い帰路につきました。とても楽しい小旅行で、私も当科のスタッフもこのような貴重な機会を頂き感謝の気持ちでいっぱいです。この場をお借り致しまして、お礼申し上げます。



日本静脈学会

NEWS LETTER